北海之光
5月号　北海道教区報

主はわたしたちに道を示される
わたしたちはその道を歩もう
イザヤ書２章３節

発行所　北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西５丁目1-12
日本聖公会北海道教区事務所
電　話　011－717－8181
ＦＡＸ　011－736－8377
E-mail:hikari@nskk-hokkaido.jp
http://www.nskk-hokkaido.jp
発行人　笹森田鶴

平和の主と共に赦しの時代を行く

留萌キリスト教会管理牧師
函館聖ヨハネ教会協働司祭
司祭　ヘレン　木村夕子

神様によって死者の中から復活させられた主イエス・キリストは、弟子たちに姿を現しました。そこで語られたキリストの言葉に注目してみましょう。

裏切られ、見捨てられ、群衆が殺せと叫ぶ中で死に追い込まれたイエス・キリストのご復活。弟子たちと感激の再会に浸ることや十字架の道行きの苦しみについて語り合うことはありません。むしろ弟子たちとしては、家から一歩出ればキリストの仲間として処刑されるかもしれない恐怖から閉じこもっていたのに、死んで葬られた墓から消えてしまったと知らされた主が、鍵を閉めていたはずの家の中で立っておられるのですから、逃げ場を失って苦しかったと思います。なぜならあの処刑の時、皆キリストのそばを離れたのですから。どんなに後悔したとしても、過去は変えられません。

復活の主が語られたのは、ご自分の命を奪った者や裏切った弟子たちへの恨みや復讐の言葉ではなく、罪を裁く言葉でもなく、平和の挨拶です。原語では「あなたがたに平和を」です。まるでそっと贈り物を手渡すように語っておられる印象です。そしてご自分が持っておられる罪の赦しの権威を弟子たちに託すと宣言することによって、弟子たちを罪の赦しの中に解放して下さっているのです。聖霊を受けなさいと言われて主の息を受けた時、弟子たちは大きな罪を赦された者として新しく生きる命の始まりを実感したのだと思うのです。聖書のこの個所はさらりと書いてあるように見えます。しかし弟子たちにとっては天地が逆転するような人生の大転換の時であり、ようやくイエス様が自分の救い主であること、死者の中からのご復活が尊い恵みであることが理解できた瞬間だったはずです。大きな罪の代償はキリストの命だったのですから。

復活の主が語られた言葉は、罪を咎めることや罰を伴う裁きについてではなく、「赦し」ですが、赦しを乞うことを求めたり、反省の辞を求めたり、赦しに値する要素を求めることは一切ありません。同時に、弟子たちの罪が赦されたと宣言することもありません。でも赦してくださっていることに確信が持てるのは、「私もあなたがたを遣わす」と言って神から託されたご自分の権威を弟子たちに与えるからです。神から与かった使命を弟子たちに託して、平和の主・キリストによって始められた赦しの時代を推し進めていくようにと言われているのだと受け取ることができます。

漁師の兄弟がキリストに召し出された時も、船の右側に網を下ろすようにと言われた時も、病気の人に床を担いで歩めと言われた時も、キリストの言葉には神の力が現わされていました。「誰の罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。誰の罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」このキリストの言葉は、神の赦しの時代の始まりの宣言であり、すべての罪を贖われた救い主キリストと共に、対立や分断、悲劇的な争いが絶えない社会の現状に向かって、諦めることなく継続して赦しの世界に向かって歩み続ける使命に応えようとしているのが現在の私たちなのです。和解とか一致という言葉を使って来ましたが、現在私の心に新鮮な響きを広げているのが、神の赦しの時代という言葉です。神の赦しとは、この世の多くの人が考える方法ではない所にもうすでにある、豊かな世界の事ではないかと考え始めています。既に語られた神の言葉から、その姿を求め続けていきたいです。

「聖霊を受けなさい」と言われた平和の主よ、どうぞ私たちを聖霊によって遣わしてください　アーメン

—心の窓をひらく—

福音と私（二六九）

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

網走聖ペテロ教会信徒
クララ　飯野　まゆみ

【私の好きな聖句】

わたしはあなたを母の胎内に造る前からあなたを知っていた。

（エレミヤ書一章五節）

私は後志地方の黒松内町という小さな町で生まれ、父は大工で、農家、酪農を営む家庭で育ちました。ずっと幼稚園の先生になりたかった私は、高校を卒業後、札幌市南区の短大へ進学しました。短大まで歩く道に建設中の建物があり、当時友達四人で「ここ何が建つんだろうね。喫茶店、雑貨屋さんが建ったら行こう」と話しながら通っていました。やがてそこに建設されたのは、十字架が大きく目立つ福音派の教会でした。私達四人は導かれるままに教会に通うようになりました。二年目の冬、主イエス様を信じ洗礼を受けたいと思うようになりました。

「主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます。」

（使徒言行録一六章三一節）

私は父母にキリスト教に入りたい事を報告しに地元へ帰りました。キリスト教とは全く無縁の母は、私の言葉にお腹を押さえ嘆きました。「なんでそんなところに。お母さんを捨てるんだ。」私は悲しむ母の姿に教会をあきらめなければと思い、教会の宣教師に伝えました。宣教師は静かに「大丈夫です。祈りましょう」と共に祈りました。私の体の中にすーとみことばが入ってきました。あれから四〇年、今母は、私達家族の事を周囲の人達にためらいもなく話しているそうです。

「あなたの父は願う前からあなたがたに必要なものをご存じなのだ。」

（マタイ福音書二八章八節）

私の人生は希望、喜び、試練のある日々です。希望に満ち幼児教育を始めました。又里親となり一一年前にファミリーホームを開設しました。

我が子が幼い時代は生活は貧しく、十分な食べ物が与えられず祈る時も生活する家が見つからず悩む時も不思議と与えられてきました。

現在の「ファミリーホームのあ」を運営する事は、私にとって人生の決断と葛藤でもありました。牧師家族は教会に住み、妻は夫の良き理解者であるのが当然だと思いながらも、ホームへの思いはどんどん強くなり、このまま自分の思いを通したら家族を失なってしまうかも、と思う気持ちは正直ありました。しかし私が困惑している時も、周囲は動いていました。開設に向けての書類、建物の改築工事、子どもの依頼。主よあなたの御心でないのなら、事が進む前に止めさせて下さい。

「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。」

（Ⅰコリント　一二章四節～六節）

私の祈りに主はみことばを与えてくださいました。

ホームを始めて一一年が過ぎました。一八名の子ども達と生活した一一年は、喜びばかりではありません。何度ももう終わりかも、と思う事もありました。どんな試練も時間と共に乗り越えられてきました。出会いは喜びと期待で迎えますが、日々の生活は普通には考えられない責任と、生活の知恵が必要です。お別れは必ず来ます。悲しみの中にある時、職員から「悲しんでいられないよ、次の子が待っているから」と言われています。どんなに障がいがあっても、どんなに問題をかかえていても、今の私は子ども達から生きる糧をもらっています。「おかあさん」と呼ばれる時、決してこの子ども達を悲しませてはならない、本当の親ではないけれどこの子達を守らなければ。「のあ」は救いの場所として名付けたホーム名です。

日々の歩みはみことばと共に生きています。「なぜそのようなことをするのか？」と言われたならこう答えるでしょう。

「主がお入り用なのです」

（マタイ福音書二一章三節）

常置委員会報告

第六回　四月一一日

《協議事項》

一、小笠原ツアー実施に関して

・本年一〇月二五日～三〇日の日程で、「笹森主教と行く小笠原諸島・父島『小笠原聖ジョージ教会』の旅」を教区の研修プログラムとして実施することとした。

二、全国青年大会参加者への支援に関して

・本年八月三一日（木）～九月三日（日）の日程で、東京において開催される聖公会全国青年大会の参加者に対し、参加に関わる費用の二分の一を教区より補助することとした。

三、宣教協議会参加者前泊・後泊支給に関して

・教区派遣の八名について前泊・後泊の必要がある場合はその費用を教区より支給することとした。

四、教区礼拝の信施奉献先に関して

・タンザニアで助産師として働いている雨宮春子姉の活動に関わる支援としてグレース基金を奉献先とした。

主教室から

去る四月二二日、東北教区第九代教区主教フランシス長谷川清純（きよすみ）師が、大いなる喜びの内に誕生しました。

主教按手式での新主教のご挨拶で、長谷川清純主教は東日本宣教協働区について、ことにその前段階となる北海道教区と東北教区の宣教協働と教区再編について言及されました。両教区の信仰の財産としてのキリスト教保育、また教会間の距離があっても信仰で固く結ばれていること、長い冬をやり過ごして復活の新しい命を待つ辛抱強さ、また東日本大震災後の両教区の協働の実践などを挙げながら、著しい過疎化の課題を持つ両教区が持続可能な教区として変革していく使命を果たしていくことは神様からの委託である、ともおっしゃられました。両教区の宣教協働推進への決意を込めた、力強い、そして北海道教区にとって暖かいメッセージでした。

すでに先月号で大友宣さんがご報告くださっていますように、チーム北国では、長谷川新主教の五年後の定年の年を両教区の宣教協働と教区再編のひとつの実りを迎える年と想定しています。始動したばかりですが、五年後はそれ程長い先でもありません。主による交わりですので、楽しいことや喜ばしいことだけではなく、しんどいことや苦しいことも共に分かち合います。そしてコロナ禍への対応も大きく変化している折、まずは相互に出会っていくことを、長谷川新主教の北海道教区礼拝へのお越しを皮切りに、これからも積み重ねていきます。キリストが結んでくれている神の家族との新しい出会いです。どうぞ皆様、この協働の営みを祈りのうちに関心をもっていてくださいますように。そして各教会、各委員会また各活動などの様々な場面における東北教区との出会いと交わりへ、皆様の積極的な企画・実践をお願い申し上げます。

主教　マリア・グレイス　笹森　田鶴

堅信式受領　おめでとう

札幌キリスト教会
アブラハム　能登　將（すすむ）
アンナ　大西　陽子
（四月一五日）

帯広聖公会
アンデレ　伊藤　和浩
（四月三〇日）

教区逝去教役者記念聖餐式

六月一四日（水）
午前一〇時三〇分
於　主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭　渡邉　英治
一九八三年六月一四日

伝道師　元城　佐吉郎
一九二四年六月二八日

執事　本田　憲之
一九一八年六月三〇日

北海道教区宣教150年記念聖歌

歌詞募集

北海道教区の聖歌を作ろう！

北海道教区は2024年に宣教150年を迎えます！
これを機に北海道教区の聖歌をご一緒に作りませんか？
神さまがともにいてくださって、これからもともに歩んでいきたい
こんな気持ちになることができる聖歌を作りたいと考えています。
次の要領で歌詞を募りますので、みなさんの思いをぜひお寄せください！

募集内容：北海道教区宣教150年記念聖歌の歌詞
短いことば、キーワード、1行メッセージなど
歌詞全体の場合は3節まで
…聖書のみ言葉、…神がともにいてくださる、
…ともに歩んでいく　といったイメージ
（歌詞やことばを選んだ理由もあればお書き添えください）
※完成した歌詞の著作権者は北海道教区となります

募集期間：２０２３年２月～６月末

応募先：日本聖公会北海道教区 150年記念聖歌係
郵便　001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1－12
ＦＡＸ　011－736－8377
メール　office@nskk-hokkaido.jp

問い合わせ：上記応募先まで。折り返し担当より連絡を差し上げます。

北海道教区宣教150年実行委員会

祝「新主教フランシス長谷川清純師、東北教区主教に就任」

去る四月二二日（土）、東北教区主教座聖堂・仙台基督教会において、首座主教ルカ武藤謙一師（九州教区）司式および主教団により日本聖公会主教按手式・東北教区主教就任式が厳粛に執り行われた。この日、主教フランシス長谷川清純師が誕生、この三月末をもって定年退職された主教ヨハネ吉田雅人師の後任として第九代東北教区主教に就任された。今回、コロナ禍ということもあり人数を制限して行われた。

式中の説教を主教マリア・グレイス笹森田鶴師（北海道教区）が担当。はじめに長谷川師の略歴を紹介、笹森師自身「いっしょに歩こうプロジェクト」で共に働いた長谷川師の霊性、経験、言葉にふれ、心のこもった祝福の言葉を語られた。

長谷川清純師は一九五八年秋田生まれ、同志社大学神学部を経てウイリアムス神学館を卒業。京都教区において聖職志願、八五年三月執事、八六年一月司祭に按手。京都教区の教会に奉仕後、九一年に東北教区へ移籍。教区内教会に奉仕、立教新座中学高校のチャプレンとして出向、再び教区に戻って来られた二年後、二〇一一年三月一一日、東日本大震災に遭遇。その震災が長谷川師の信仰の決定的転機になったことに言及された。

震災被災者支援の責任者として働く中で、被災地の各地で「ご復活の主が、すでに、そこにおられる」ことを長谷川師は何度も証しされるようになった。「悲しみと痛みと涙と傷と、死と被害に覆われている人々とともに、その只中に、イエスさまが寄り添っておられた、それは紛れのない事実であり、出来事だ」と。

笹森師は長谷川師の積み重ねてきた経験と言葉に触れ、その主に従う姿勢と歩みに、共に歩む者として祝福をおくられた。

武藤首座主教は、その祝辞の中で、主教団に素晴らしい感性と霊性を持つ長谷川師を迎えることができ喜びであるとして、「宣教協働と教区再編成を視野に入れた」東北教区と北海道教区のこれからの働きを励まされた。

来賓として大韓聖公会を代表して議長主教・朴東信師（釜山教区）が「東北教区のみならず、日本聖公会にとって、この日が、喜びと希望の日である」と祝辞を伝え、つづいてウイリアムス神学館長・司祭黒田裕師は「卒業生として最初の主教」となったことに言及しつつ祝辞を述べられた。

挨拶に立った新主教長谷川清純師は、「過疎化の厳しい東北と北海道から、持続可能な教区・教会に変革して行く歴史的使命を委託されていることを担い、『わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽い』との慰めの言葉に頼って行く」ことを表明された。

東北教区との連帯、これからの協働の歩みのため、神の祝福と聖霊の導きを祈りつつ、報告いたします。

（文責・司祭池田亨）

宣教一五〇年実行委員会だよりⅢ

司祭　サムエル　吉野暁生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。先月は「ロゴマークの選定」のお願いをお報せしました。まだ間に合いますので、ぜひ投票してみてくださいね。

さて、今月のお知らせは「宣教一五〇年献金」についてです。宣教一五〇年実行委員会では、宣教一五〇年記念事業を三つの分野で計画しています。「過去を振り返る」ために、「福音と私」や「記念誌」の発行、アイヌ伝道の振り返りとしてパネル展やシンポジウムを開催します。「現在を祝う」ために「記念礼拝」と「祝会」を行います。そして「教区の未来」のために、黙想会や北海道教区宣教協議会の開催や「教区未来基金」の設立も視野に入れています。これらの事業の運営に約一二〇〇万円を見込んでいます。「過去を振り返る」部分に関しては教区が支出をし、「現在を祝う」部分と「教区の未来」のためにみなさんに特別献金をお願いしたいのです。目標金額は七〇〇万円です。

献金は一口一月五〇〇円で、献金の期間は二〇二三年六月から二〇二五年五月までの二年間を予定しています。みなさんが一人一口を二年間続けて献金していただくと目標に到達する予定です。もちろん一口に限らず、二口、五口と多く献金していただくのも大歓迎です。北海道教区の過去・現在・未来のため、ぜひご協力をお願いいたします。

一五〇年記念事業は、みなさんにとって、自分と関係のない誰かがいつの間にかやっていて、頭の上を通り過ぎていくものでないようにしたいと願っています。みなさん一人一人が北海道教区の過去を見つめ、今を祝い、これからの未来に向かって歩みだす大きな機会です。「献金」という形でも、ぜひ積極的にご協力をお願いいたします。

主が北海道教区とそこにかかわる一人一人を豊かに祝してくださいますように。

第一回福岡フェローシップに参加して

司祭　ノア　上　平　　更

この度教区主教からの推薦をいただき、本研修に参加させていただきました。研修の世話人を含めほとんど初対面の他教区の聖職九名と共に三泊四日を福岡聖パウロ教会で過ごしました。他の聖職者たちの説教準備への取り組みと実際の説教を耳にする貴重な時間でした。このプログラムの前身に二〇一四年から一七年まで実施された「ベテルフェローシップ」があり、その発端は発起人・世話役の濱生司祭の東京での「オルバンフェローシップ」での体験にあるとお聞きしました。「説教の再認識」と「教区間の聖職者の交流」を目的として開かれ、期間中、植松主教が分かち合われた多くの説教に関する気づきや反省は、私たち北海道教区の者としては懐かしく思い出される話が多々ありました。その中で「逆境の中で福音を語ること」「説教は、時に自分の思いを超えて相手に届くという不思議」「どこに立って（傍観者としてか当事者か等）福音を語るのか」といった大切な気づきを与えられました。

全体を通して知識を取り入れる「学び」というよりも「分かち合い」の時間を大切にした四日間でした。参加者一人一人の言葉に十分に耳を傾けて、共感し、意見を交わすにはまだまだ足りないと感じる位でしたが、それは研修の目的である「教区間の聖職者の交流（フェローシップ）」がこの場で生まれた証拠ではないかと思います。異なる教区、違う環境や条件の中で、同じみ言葉を聞き、同じ主に仕える者として、祈りの仲間が増し加えられるたことは感謝の一言に尽きます。

後半二日間の説教準備の黙想中、外に散歩に出かけました。天気に恵まれた中、大濠公園にはたくさんの人たちが訪れていました。出会った人たちの平和で笑顔に溢れた姿は、世界規模の戦争・貧困・コロナなどの重たい課題について考え、説教発表を控えている自分にとって、最初は受け入れ難い光景でした。そんな思いの中、研修に参加していた咸允淑司祭（沖縄教区）が反対方向から来て笑顔で手を振ってくれた時、思わず自分も笑顔で手を振り返しました。そして自分が、楽しんでいる人たちと自分は違う存在であるかのように振る舞い、目の前にある「平和」を祝福できていなかったことに気づかされました。この体験なしに説教メッセージを完成させることはできなかったかもしれません。

初日の夕の礼拝では期せずして出エジプト記四章一〇節以下が読まれました。「ああ、主よ。わたしはもともと弁が立つ方ではありません」と読まれた箇所は、モーセが主なる神に言い訳をしてエジプトへ行くことを断ろうとしている場面です。研修中何度も聞いた「私は説教に自信が持てない」という言葉とモーセの言葉が重なります。しかし、モーセにアロンが与えられていたように、私たちにも目の前にいる仲間たちが与えられています。神の霊を受け派遣された聖職者たちそれぞれの口を通して、それぞれの場で、語りきれない福音がもたらされる。それは私たち自身で完結する「教え」ではなく、私たちの思いを超えて「福音」として耳にした人たちに伝わっていくものだと信じる気持ちを新たにすることができました。この機会が与えられたことに、主に感謝。

▽旭川聖マルコ教会

二月二二日から始まった大斎節、いよいよ四月の二日から聖週を迎えました。

二日、棕櫚の十字架作り。七日、受苦日礼拝。

八日、午後一番からの子どもイースターでは、保育園の園児と共に早めのイースターお祝会、婦人会中心の翌日のイースター準備、聖土曜日洗礼更新礼拝と続きました。

九日、待ち侘びたイースターでは五〇人を超える参加者に恵まれました。感謝！

四月は、牧師の交代により大忙しでした。教区、教会の人事異動による混雑が早く収まりますように。主の平和！

▽岩見沢聖十字教会

新年度、幼稚園には多くの新しい子どもたちが入園しました。先生も二名加わりました。ご結婚で聖ミカエル幼稚園から当園に転任された浦口咲紀先生。卒園児の森愛恵先生。宜しくお願いします。

二〇日、マリア石川美千枝姉召天。栗山町の自然豊かなご自宅で心温まるご葬儀が池田亨司祭司式にて行われました。葬送式では笹森田鶴主教様も参列。美千枝姉、いつの日か天国でお会いしましょう。

三〇日、永谷亮司祭による聖餐式。今後も第五主日の月に聖餐式が行われます。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸（あつけし）聖オーガスチン教会（伝道所）

今月は復活前主日「棕櫚の日曜日」で教会活動が始まりました。「棕櫚の祈り」の後、前週皆で和気藹々と折った棕櫚の十字架を祭壇の前で二一人の信徒たちが受け取り、その後いつも通りの聖餐式へと。信徒達の貌は晴れやかでした。

翌週四月七日はクリスマス以上に大事だとされる復活祭。この日から礼拝は「式文」からコロナ以前同様、祈祷書に戻りました。コロナ禍が大分収まってきているのを実感する出来事でした。

礼拝後は嬉しいことに三年ぶりに集会室でお茶会。二九人の信徒達の殆どが出席し、お互いの近況を確かめ合いました。「クリスチャン」を実感する至福のひと時でした。

復活節第二主日の四月一六日。恒例の「教会問答あれこれ」の勉強会。「教会の信仰は何に基づいているか」とのQに、A「聖公会では『聖書と伝統と理性』の三原則を持っている」ことを深く学び、復活節第三主日では礼拝後「信仰デザインノート」の詳しい説明を受けました。信徒としての最期…考えておかねばならぬ現実を感じました。

▽小樽聖公会

四月七日（金）受苦日。小樽聖公会聖堂にて正午より公祷をささげる。沈黙の祈りのうちに主の十字架を仰ぎ見る。

四月九日（日）復活日。久しぶりに聖歌三曲、全節を歌う。

四月一六日（日）、復活節第二主日。笹森田鶴主教さまの巡回日。主教さま、この日（「オクターブ」主のご復活の八日目）の重要性を語られる。聴く者は、その意義を新しく受け取る。そして、キリストのご復活を心から喜び語られる主教さまによって、その喜びが伝わる。この日の出席者、復活日の出席者と変わらず。二週連続の喜びの日となる。

▽帯広聖公会

四月九日午後、管理牧師の吉野司祭に釧路よりお越しいただき、イースターの聖餐式が行われ、多数の信徒でキリストの復活をお祝いしました。

環境が変わることが多い四月節でもあります。帯広聖公会には、大町信也司祭が着任され、信徒一同がこの出会いに感謝の気持ちでお迎えしました。三〇日には、笹森主教による牧師就任式及びアンデレ伊藤和浩さんの堅信式が行われました。今後の大町司祭のお働きと伊藤さんの信仰生活に神様の豊かな祝福がありますように。

▽稚内（わっかない）聖公会（伝道所）

やっと雪も溶けた四月一四日（金）、イースター礼拝。司式・説教は永谷司祭。今年のイースターは、三名で主のご復活の喜びを分かち合う。礼拝後には春の菓子とお茶で歓談と交わりのひとときを。時間がいくらあっても足りないほどでお話も盛り上がる。永谷司祭は二〇二一年四月から管理牧師として奉仕されていましたが、人事異動により今回が最後の礼拝。今後は下澤司祭を管理牧師に迎えて教会の営みが続けられます。両司祭に主の祝福と恵みが豊かにありますようお祈りします。

▽苫小牧聖ルカ教会

例年になく早い雪解けと桜前線の北上。礼拝堂前の桜も目覚めが早かったようだ。

信徒の手入れにより枯草や

ごみが掃除され、庭に新たな息遣いを感じる。その力は鮮やかな花を咲かせるだろう。

コロナ対応で短縮版の小冊子を使用しての礼拝が長く続いたが、復活日の礼拝より祈祷書・聖書・聖歌集が本来の形で復活した。これにより信徒の信仰心も更に強いものとなって復活するに違いない。

庭に花、負けじと固い信仰心は実を結ぶ。

▽札幌聖ミカエル教会

主の復活ハレルヤ！復活日の礼拝には一四〇名が集まりました。久しぶりに祝会も開かれ、コロナ禍前の状況に戻りつつあります。三〇日にはエンジェルウィングズ（中高生の集まり）も、今年新たに加わった二人の仲間と共に活動を開始。ミカエル幼稚園も一二日に入園式を終え、三〇人の新たな子ども達を迎えて元気にスタートしました。一六日には旭川へ異動となる下澤司祭夫妻の送別会が行われました。二一日に上平司祭夫妻を新しい牧師館に迎え、新たな歩みをスタートさせました。

▽新札幌聖ニコラス教会

春になり周りでは桜の花も咲き始めていますが、まだまだ肌寒い日々が続いています。四月九日イースター、洗礼式も行われ、ニコラスに新しく仲間が一人加わりました。

一六日、上平更司祭のニコラスでの最後の礼拝となりました。共に歩めたことに感謝します。礼拝後、六年間の写真のスライド上映を行い、懐かしい思い出を共有しました。

これからは定住の司祭が居なくなり、信徒により礼拝の準備を行います。早速二三日松井司祭を迎えての聖餐式、週報の印刷やらてんてこ舞い。新しいニコラスの始まりです。

▽函館聖ヨハネ教会

二日、棕櫚の十字架を手に行進し礼拝が始まる。福音書は出席者全員で朗読劇。今年のイエス役は上平更司祭、ユダ役は藤井司祭。「十字架につけろ」と叫ぶ自らの声にハッとする。九日復活日の礼拝からチャント復活。「覚えてるもんだね」「声をそろえて歌うのはいいね」との声多し。短時間の愛餐会、みんな笑顔。二三日、桜満開の中、大寺夫妻の納骨式行われる。二九日よりオープンチャーチ始まる。平日のボランティアも復活。国内外からの観光客途切れなし。三〇日、ワックスがけ、椅子の掃除、庭仕事等、楽しく汗を流す。みんなの心も晴れ晴れ。

▽平取聖公会

四月九日のイースターから祈祷書による礼拝に戻りましたが、聖歌はまだ三曲です。コロナ感染拡大から三年間はとても長く感じました。パンデミックということばが一般化しました。

認定こども園バチラー保育園の建て替え工事が完了し、旧園舎からの引っ越しの後、四月三日に新園舎での入園式が挙行されました。園舎中央のホールは天井が吹き抜けになっているので、旧園舎より開放感があって素敵です。その様子が町議会報の表紙を飾りました。

旧園舎は解体されて広い園庭になり、園庭に続く専用通路ができますので安心です。

▽紋別聖マリヤ教会

四月に入りましたが、なかなか気温が上がらず、一六日から一七日にかけて二五センチほど積雪があり、真冬に逆戻り。

九日、越山司祭司式によるイースター礼拝。この日は、内竹兄のお父様の逝去七周年記念礼拝も行われました。イースターと内竹兄のお父様の逝去記念日が重なる日は二〇九九年までに二回あり、二〇三四年と二〇四五年。

三〇日、飯野司祭司式による聖餐式。第五日曜日がある月はお願いしています。

▽有珠聖公会

四月一六日、イースターの礼拝を共にし、一週間遅れで主のご復活を皆でお祝いしました。

二二日、札幌で療養生活を過ごしておられたルツ刑部節子さんがご逝去されました。霊の平安をお祈りします。

白老のウポポイで六月二四日から八月二〇日の期間、開催される特別展示「〝アウタリオピッタ〟アイヌ文学の近代―バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市―」が近づいて参りました。

▽留萌キリスト教会

白鳥の北帰行が賑やかだった四月。イースターを一〇名でお祝いしました。藤井一麻くんは小学三年生になり、背が伸びていました。お昼のお弁当を囲みながら、久しぶりに交わりの時を楽しく過ごしました。

自宅療養中の土門明子さんをお訪ねし、共に祈り塗油の式を行いました。明るい笑顔で再会を願う握手をしてくださいました。

体調がすぐれない信徒が増えていますが、お互いに励まし合い祈り合う温かい交わりに感謝しています。

▽聖マーガレット教会

四月二日復活前主日は棕櫚の十字架を頂き、戸惑いながら福音書を受難朗読劇で礼拝。聖週を守り聖木曜日には

チャンセルを全て片付け、聖土曜日夕方五時からイースターヴィジルを行う。復活日は、喜びのうちに集合写真撮影と食事を共にする数年ぶりの祝会。

駐車場利用の便宜から無償での使用だった通称「三角の土地」一三余坪を購入出来ることになる。先輩教会委員からの長年の望みが思いもしない形で実を結ぶとは、改めて神様のご計画の中で祝され用いられていることを思い感謝。

▽室蘭聖マタイ教会

四月七日、藤井兄司式で、受苦日礼拝。その後、教会の掃除。また田中家のプレゼントのゆで玉子を袋に詰める。

九日、苫小牧の松井司祭によって、栄ある主の復活の礼拝。室蘭にとって嬉しい一年目に、落合姉が洗礼を受けました。一緒に主の道を進みましょう。

二二日、松井司祭の司式で復活後の聖餐を受ける。その後、先生から「葬儀への備え」について説明を受ける。

三〇日、松井司祭の司式で聖餐を受け、その後、聖書の輪読で説明を受けて、感謝の午後でした。

▽北見聖ヤコブ教会

梅澤安雄さんは退院され感謝。二日には皆、棕櫚の十字架をいただく。六日江口家、二一日岡家の逝去者記念の式がそれぞれご自宅で執り行われ、受苦日は午前に「十字架上の七聖語」を黙想、一五日には窓の雪囲いが取り外され台所が明るくなり、一六日はイースター礼拝で「傷ついたままの復活」を黙想。司祭は二四日管区第四回教誨師の集い、二五日ケズイック感謝会、三〇日は紋別聖マリヤ教会でのご奉仕でした。

すっかり春となった北見。教会の歩みも春となれ！

▽網走聖ペテロ教会

肌寒さを感じる中にも網走も桜が咲き、春の美しさを目にしています。九日、イエス様のご復活を祝う。五〇年前に愛香幼稚園（聖公会）を卒園した方が来会、のあの子ども達も出席、一八名でなごやかな時間を過ごしました。ペテロの会では礼拝堂のワックスがけが乾く合間に歌を歌い座談のひととき、これも大切な時です。月一の聖書の勉強会も、箴言を通し日常生活に生かし分かち合う恵みの時です。ホーム関係の子ども達も入学、就職と新しい出発を迎えています。

▽札幌キリスト教会

祝イースター！一七〇名以上の出席者とともに、帯広に転任される大町司祭最後の司式、説教を授かる。礼拝後送別会が行われ、花束や送別の言葉が贈られた。また三年ぶりとなる愛餐会も開かれた。当教会での一一年の交わりに感謝。帯広でのお働きを祈る。イースターに三人の子ども、福島ひかりさん、向井優月さん、向井陽都さんが洗礼を、一五日に能登將さん、大西陽子さんが洗礼、堅信の恵みに与る。一七日に永谷司祭が着任、二三日より礼拝を司る。五月二一日に牧師任命式の予定。七日、須田潔さんご逝去。長年のご奉仕と交わりに感謝。

▽深川聖三一教会

四月一日、深川あけぼの保育園第五一回入園式、四名。理事長より祝電、感謝。二日、教会委員会。六日、聖金曜日受苦日の礼拝を行う。九日、復活祭の礼拝。教会から出席者に大福をこめたお菓子が送られる。一二日保育園の礼拝で園児と学童と職員に超大型卵から生まれた贈り物をする、教会より。一六日婦人会、元ドイツ首相アンゲラ・メルケル女史著『わたしの信仰』の学びを再開す。一九日教会から保育園への賜物「掲揚台」の祝別式、こいのぼりが青空に泳いでおります。募金協力に感謝。

▽新冠（にいかっぷ）聖フランシス教会

ようやく桜の花をみられる季節になりました。教会へ向かう車窓から薄いピンク色の山桜がポツンポツンと咲き始め、庭先には白いコブシと芝桜がいっぺんに咲きそうな年です。教会では、いつも元気な声でお話好きな肥田美代子姉が、新冠町共栄にある施設「おうるの郷」に入居されました。施設においても主のお導きと平安がありますようにお祈り致しております。復活節第三主日には熊谷和彦兄と泰彦兄揃って主の復活の喜びと聖餐式を共に与えられ、感謝でした。体調を崩しておられるお仲間が一日も早くお元気になりますように、心からお祈り致しております。

▽今金インマヌエル教会

四月九日、笹森主教様巡錫のもとイースター礼拝、インマヌエルで初めての種の祝福が行われました。雪の中行われる年もありましたが、すっかり春らしい中の祝福。今回は今金にご縁のある長沢氏がカナダより来道され礼拝に参加される。コロナの中、自粛していた婦人持ちよりの祝会も行う事が出来ました。昨年末に平野兄より業務用ストーブの贈り物あり感謝。長い間教会のシンボルであった鋳物のストーブが役目を終えました。三〇日には、せたな町山本家の納骨埋葬式の予定です。